第４回薩摩川内市総合戦略検討委員会 議事要旨

開催日時 平成２７年８月２４日（月）１４：００～

場 所 川内商工会議所　２階会議室

１．市民アンケート及び地域経済分析等の結果について

（事務局）以下の資料について説明。

資料１　地方創生に向けた課題意識と解決の方向性・総合戦略の基本的な考え方

資料２　薩摩川内市地方創生に向けた課題の整理案

（萩野委員長）全体的に仕事があれば解決するという常識的な環境が出て来ているのは間違いない。買い物の問題が出て来て、今回のアンケートでは、大きな原因がそうだった。

（徳田委員）3 点ほど尋ねたい。1 ページ、アンケートの中で比較的治安がよいと言いながら、防災面で不安があるのは具体的に分かりにくくなる部分があるのか。11 ページの表の中で特に 100 人以上、30～99 人では後継者育成の問題がある。例えば学校を出てすぐには戦力にならないということからなのか、在職者のレベルが上がって来ないからなのか。27 ページの上、宿泊事業者数が十分でないこともあり宿泊数が増加しないとあるが、宿泊利用者数だけの問題なのか、民宿などの受け入れ体制が整っていないのかが分からない。28 ページの観光物産協会の取引事業者数が飛躍的に上がっているが、個別の取引業者での雇用者数の増なのか、ただ加入が増えただけでそれにともなって雇用者数の増となったのか。

（事務局）1 ページの防災面で比較的安心である指数 6.0%、2 ページの防災の面で不安があるレベルの防災に関しては 25.8%である。防災の一般的な部分では、住みよければ防災が安心、住みにくければ防災が不安という指数が上がっていく。ここで具体的な懸念している防災について風水害なのかその他の災害なのかは特定できないが、市民に聞いた中では防災に不安があるということになる。

11 ページで人材育成の項目ついて、それぞれの事業者の中で人材育成が図れないのかということであるが、企業として必要な人材を求人しても求職者が見当たらないととらえている。人材育成する機関や環境がないということも隠れた要因になっているのではないかと思うので、今の方々のスキルを上げる場がない。もしくは、高い技術を持った方の求人に対して応えられないという二面性が言われている。

27 ページの宿泊者数が十分でないことであるが、甑地域に対する宿泊の十分なキャパシティがあるかという部分では、まだ十分ではないととらえている。一次的にはホテルの部屋がない。宿泊とそのキャパシティが小さいことが要因だと捉えている。28 ページの表 43 の観光物産協会取引業者数・従業者数は 26 年から 27 年で大きく増加しているが、26 年の 23 事業所から 27 年に 68 事業所数となったことによる。

（萩野委員長）まずこれをベースにして考えるということになる。

２．雇用分野での今後の取組について

（事務局）以下の資料について説明。
資料３　雇用：具体的な施策（案）

（萩野委員長）基本的に総合計画にあるものも含まれていて、それをベースとして総合戦略にしている。３ つに区切ってあり、１番目が全産業に関する取り組み、２番目が個別の産業をターゲットに設定、３番目が雇用対策で若者、女性等が入っている。本部で考えているのは、総合計画等の理念をもとにし、あとは取り組みを盛り込んで総合戦略にしたいということである。

（諏訪委員）２項目の農地の集約化と担い手は関連することではないかと思う。どういう考え方で農地の集約を進めるか。あるいは農業法人的に集約されるのか、２年以内で地域に長くかかわった農村を育成しながら集約をする。同時に過疎化が進んでいる零細的な現場を考える。
　もう１つは、六次産業の推進と農商工連携の推進が関連するのではないかと思う。六次産業は一応稼働部門があるが、ハンドワークをどうするか。農家がつくったものをどこで売れるようにするか。農家の方々は本当にそういった意味で農商工の連携の推進を考えている。
　さらにもう１点、林業に対する考え方が書いていないが、これについてはどう思っているのか。

（事務局）まず１つ目、農地の集約化と担い手の育成をどうリンクさせているかだが、農業の担い手不足が地域の課題となっているが、そういった方の農地も集約するなどの政策を採っている。
　２つ目の六次産業の農商工の連携だが、六次産業は生産から製品の販売まで一定の流れである。川上の生産から販売まで単独でするのではなく、農業はいい品質のものを生産者が作るが売らない。また工場では食品加工するのではなくつくる。最後には、サービス卸しという形で販売されるというように、決してどちらを選択するということではなくて両輪で動かしていきたい。
　３つ目の林業で地域の雇用や生産を担う形でどのように形づくることができるのかは議論の最中で、今日の文章の中に書いていないのは方向性としてきちんとしたものが見えてきていない。

（諏訪委員）最終的には資源は日本の山しかない。どう活かすかによって変わってくる。建築概念が見直されている。木材は年々大きくなっていくわけであるから、切れば伸びていくので限りない資源があるのではないかと思う。

（萩野委員長）林業は環境産業として通っている。この辺は、少し環境産業としてバイオマスを含めて少しは売れないといけない。竹の活用はあるが、そればかりではない。
　現在の雇用の具体的な施策で、目標値は何人ぐらい雇用しようとしているのか。10 年後は何人といった目標があれば。

（事務局）「具体的な施策」ごとに、最終的な施策を書き上げた後に、ＫＰＩ指標について書きたいと考えている。例えば産業の育成については、事業化された数なのかといった指標を示したいと考えている。

（萩野委員長）人口減から見れば薩摩川内市は、これぐらい雇用を増やさなければいけないか出ていないか。正確な数は出ないと思うがざっとでよい。

（事務局）出ていないが、単純な引き延ばしと人口減少の危機感的な部分で言うと 54,000 人のレベルであり、今後本格的な雇用に対する施策や出産に対する施策によって、65,000 人なのか 70,000 人なのか設定していく。ご指摘のように取り組みについてはきちんと述べたい。

（萩野委員長）前に悲惨な人口減があったが、個人的な感触では雇用で 10,000 人以上賄えないと、このまま衰退していくと思う。この３つの施策で若い人をという観点で考えてもらえればと思う。

（八田委員）せっかくの分析であるが、働く場所がない、買い物が不便、人が集まるにぎわいのある拠点がない。昔は買い物とか拠点があったような気がするが、今は買い物していない。交通の便から鹿児島市内に行ってしまう。

そういう分析結果を踏まえてどうやって働き場所、どれを優先するかだが、人が集まっていきたい、集まりたい、ここに行きたいと話になれば、人が集まる場所をどうやってつくっていくか。仕事場、商工業、サービス、ショッピング、拠点があれば集まって来る。どうやって人を集める、集まるように引き出していくか、つくっていくか、PR していくか。いくつかの拠点をつくる。甑島はそうだろう。もっと活かす方法もあるかと思う。

そういうところから新しいビジネスが始まるだろうし、若い人たちも出て来るだろう。住みつく人も出て来るだろう。よそに出た人も地元で、こういうところがあれば自分もできるかもしれないと戻って来るだろう。循環するような仕組みをつくっていくことを一緒に考えてもらえるといいと思う。

薩摩川内市としてわれわれは何を誇りにして何を魅力、売り、価値とするのか、われわれ自身が認識していかないといけないと思う。

（萩野委員長）アンケートの資料で産業別就業者の割合があって、薩摩川内は製造業、従業者が県平均より 8%ぐらい高い。第二次産業が固くこのまま推移するとするならば、まずは第三次産業、サービス業がたぶん不足しているのだろう。

アンケートでまちのにぎわいがない、買い物が不便だといった他の地域の産業構造が少ないというのがあるから、経済においても第三次産業がこれから雇用を満たす。鹿児島市は満たしている。薩摩川内市はそこにターゲットを絞ってもよいのではないかと見ている。それプラス薩摩川内の特徴は、いろいろ出して市の本部で考えていきたいと思う。

（今別府委員）総合計画のときも薩摩川内市の強みを活かして弱いところを克服していくという計画をつくるべきではないかという議論であった。アンケートの結果を見たが、背景をよく分析しないといけないのではないかと思っている。薩摩川内市は原子力発電所を立地しているから、人口がある時期には非常にピークになっている。年間上がり下がりがあると私は分析している。宿泊者数のキャパシティがないと言われたから、原子力発電所が建てば検査で 3,000 人ぐらい外から来られると言われている。その時期は宿泊者数が増えるが、定期検査がない時期は客が非常

に少ないというは背景があって、なかなか宿泊者を平準化できない背景があるのだと思う。
　また１つの強みとしては、高速交通網が非常に整備をされている。新幹線がある、西回りがある、川内港から外国航路があるという非常に交通の利便が高い。鹿屋市と人口規模が一緒だからよく比較をされるが、鹿屋市は鹿児島との距離が交通の利便からいっても非常に悪い。薩摩川内市にプラスになる部分もあるがマイナスになる部分もある。例えば買い物は鹿児島市に吸い取られてしまうという現象もあるが、交通の利便が非常にいいということを逆に何らかの施策を打っていくべきではないか。川内港から韓国を中心に外国航路が出るが、宮崎港からは中国、韓国、東南アジアに向けてかなりの材木が輸出されているそうである。薩摩川内市も外国航路を持っているので、ほかの外国の需要が薩摩川内市の資源の中でどういうものがあるのかを分析しながら地域の産業を創出し輸出することも考えないといけないのではないか。

（萩野委員長）宮崎がかなり出しているのは事実である。宮崎より近い西海岸は、その可能性が高いと思っている。交通の便から言うと、何年後になるが南九州自動車道が開通すると、これについても、観光など考えてもらえば思う。今でも自動車で鹿児島市内に通勤している人がいるのではないか、新幹線よりは安いかと思う。そういうところも考えてもらえればと思う。

（福留委員）強みと弱みをきちんと分析するということになると思う。外から見た薩摩川内市のイメージは、バイオマス以外だとものづくりのまちだと思っている。その先に何を理由として選んでいるかをどう打ち出すかが問題だと思っている。薩摩川内型産業創出、必要な機能は何なのかということだが、ものづくりの強みを活かして将来バイオマスみたいなものに広げていく。あるいは今回、議会にも出ていたが健康福祉に対する参入意欲も強く出ているので、つながっていくようなキーワードがあるべきではないか。
　唐津市は交通の便は非常にいいし福岡市にも近いが、あまり有力産業はない。人口も 12 万人ぐらいの都市だが、最近非常に活気があってコスメティックセンター構想を打ち上げている。唐津市を化粧品の製造の一大拠点にしようという構想で、いろいろな企業も関心を持っている。ほとんど縁がなかったが、フランスのコスメティック・パレオという化粧品業者を呼んで来て化粧品産業拠点にする。化粧品の素材はすべて佐賀県内の水産物、天然由来のものなので成功するかどうか分からないが非常に夢がある。しかも既存産業の１つが面白い。地元の素材とかこれまでの集積が活かせるので、少し広めのテーマ設定になる。例えばスイーツでもいいし、安心安全産業という概念にしてしまう。原発が近いので安心安全に対する意識が強い。企業力も強いなというのを目指していく。
　シンボリックな意味合いで掲げていって産業支援の目玉にしていく。今回の結果で 12 ページ、異業種参入意欲。製造業、本社事業について環境エネルギーが考えるとよく分かるが、医療・福祉・健康、観光に対する製造業の参入意欲は 27%で、ほかの地域ではあまり聞いたことがない。これを少し掘り下げてみてどういうものにつながっているのかを位置付けから見ると面白い。製造業は、観光などこれまであまり関連がないと思われる業種が多い。食品等になると思うが、どこなのか、それが重要な提案になってくる。テーマ設定を具現化していくときに説得力もある。

（萩野委員長）地域特性と次世代エネルギーに対する地域産業の創出と振興でいろいろなものを考えていると思うが、具体的に広げていくのはあるか。

（事務局）エネルギーについては、今あるものを磨き上げていく。先に確認した全体にわたる産業振興について、研究開発し、評価し、形を変えていくイメージしているところである。先の医療機器の部分では、薩摩川内型の活動をしているが、まだ全体が形として入れてない。ただ、全体の中の地域で浸透させられないかという議論はしている。

（徳田委員）1 つは、以前産業振興センターというのがあり、結果としてはあまり成果を上げなかった。この新たに作る産業支援センターについては産学官の一次産業、二次産業、三次産業という形の支援センターをつくることで後継者育成ができるのではないか。

中越パルプでは輸入が 7 割と言われている。林業で間伐材の活用というのが広がっているが、これをすることで一次産業の分業の振興ができるのではないか。

九電や京セラなとで雇用創出ができないか。もう 1 点は女性が仕事を持つ「起業」も、国道３号線沿いの空き部屋を借り入れるための支援策を十分していく。あるいは、一次産業の女性の起業と一緒にしていただければ。

農地の集約化、集積化については、簡易な方法で農地を集約することで若手の農業参入が出て来る。うまくいけば雇用につながっていくだろう。

南九州自動車道が通ることでインターチェンジを活用して鹿児島市まで 30 分程度いけるようになったので、仕事が鹿児島市になっても居を構えて会社に行く。

特にコンシューマについては相当な力を持っていると思うが、問題は宿泊施設である。民宿等の後継者育成とともに、宿泊所の環境をよくしなければリピーターも出てこない。

女性の活躍促進では、働く場で子どもを育てる場合に一番何が問題かというと保育である。市民病院が院内保育を持っているが、例えば町の病院、企業が連携して連携型の保育園をつくることで女性が働きやすい職場づくりができる。

福祉関係では温泉が町の周辺にあり、温泉活用の福祉施設も大きな売り込みとして進言していく形がいいのではないか。

（萩野委員長）林業がキーワードになりそうな気がしているので、新産業も含めて力を入れてやっていただければと思う。

産業振興センターの話が出ているが、センターを固定化してしまうとこれだけになる。なるべく箱物は部屋の 1 つぐらいにしておいて、それぞれ合併前の拠点に行って産業支援をしていただく。各地区には商工会の支部があると思うので、商工会を使いながら、広域に対応できるセンターを考えていただきたい。六次産業は商工会はやっているが、一緒になって展開していただきたい。例えば商工会で考えている福祉産業とうちのセンターで考えているものと、ずれがあればあるほど新しいビジネスチャンスだと思う。女性の起業センターみたいなものを考えていいと思うが、広域に対応できるセンターを観点に入れてもらえればと思う。

（田島委員）事業検討のキーワードについては、それぞれの団体でテーマとして話し合っている。先週も女性の子育て、創業支援の講座等を開いている。事務局以下もそういう意見を吸い上げて、会議をするところを設けていただく。それをこちらに活かしていただいたほうが、現場で実践して感じている者の意見がより良く聞けるのではないかと思うので検討いただきたい。

（鎌田委員）前々回いただいた資料で薩摩川内市の従業員数のグラフがあり、農業、林業、漁業が 24 年度で 349 名、119 名という数値が出ているが、この数字は六次産業に足りる人数なのだろうか。すごく少ないと思われる。強化していくのが一番最優先ではないかと感じた。

（事務局）六次産業者の数を測るときの考え方だが、まず生産として農林水産業に従事されている方が一次産業の方である。食品加工とか販売も含めると六次産業で従事される方は数十倍になる。生産の農家の生産の方が販売までしようとすると 349 人となっているが、市とすると生産者や販売まで育成しながらも、製造される方、販売される方もいるので六次産業の従事者は幅が大きい。今後、特にサービス業、卸小売りの方々の数が少ないということもあって、六次産業の中では新しい製品をつくって販売するというような考え方でやっていく。

（萩野委員長）農業や林業をメインにするのは厳しい。農業と林業、公務員と兼業でやっている方もいる。

（事務局）若い世代の特に女性の意見といった部分については、意見を伺う機会を設けたい。

（今別府委員）農業特区ということで唐浜がらっきょうの生産地である。企業やいろんな団体に農業に参入していただくような取り組みをされたが、農業従事者がどんどん高齢化していく。10 年先は耕作放棄地がどんどん増えてくるのではないかと言われており、農村地帯の皆さん方からどうするのだと市にも言われている。
　企業やいろいろなところで農業に参入する場合にどういう障害があるのか、どういう問題があるのか検討して企業や団体に農業に参入できるような環境をつくっていかないと、薩摩川内市の農村地帯は生活する上で厳しい状況になっていくのではないかと懸念を持っている。どのように市で検討されているのか聞かせていただければと思う。

（事務局）特区の関係での唐浜とらっきょうについては、株式会社なども含めて担い手について考えなければならない。

（青山委員）大きな区分け（縦割り）がされているので、横の連携ができる人がいれば、いろいろな情報を集めて 1 つの産業、雇用につながっていくのではないか。

（萩野委員長）それはどこがやるのか。

（事務局）女性の視点で体制をどうするのかという議論は、きちんとしていきたいと考えている。誰がするのかというより市としてしなければならないと思っている。女性の視点で、これは女性がすべき、男性がすべきなどがあれば聞きたい。

（萩野委員長）公務員は仕事をしようとするとお互い押し付け合うことをやり出すので、総合戦略にはある程度の方が責任を持ってやるという表現をしたほうがわれわれ市民としては市役所を

たらい回しにされなくて済む。そういう意見があったことも頭に入れながら次回考えていただければと思う。

（徳田委員）農地の集約化の関係で特区の問題があったが、農地の集積化、集約化ができるか。例えばそうやっても代表者が責任を持って農地を貸すとか、形を取っていかないと成果が上がっていない。特区で規制緩和が図られれば集約していくだろうと思う。しかし、農村というコミュニティが壊れてしまうと薩摩川内市が荒廃していく。農地の集積化、集約化においても特区について折衝になる形がいい。

（事務局）トップも含めて議論すべきなのではないかと思う。

（萩野委員長）特区については、総合戦略に入れるべきかどうか分からない。

（八田委員）一時岐阜にいたが、農業のいいと思ったところがあった。会社組織だったように思うが、何ヘクタールも広いところでにんじんならにんじんばかりつくっている。そういうところを見ると農業のマイナスがプラスに見える。
　農業をマイナスイメージではなくてプラスに変えることも可能ではないかという気がする。農業に限らず、竹バイオマスなどもそう。景観の視点も必要なのではないか。鹿児島で言えば長島の景観がそういうイメージか。海、段々畑できれい、人も喜ぶので、そういうものをイメージしてもらえばいい。

（坂口委員）ヘルスケアについて、鹿児島市内から引っ張って来るような事例もある。引っ張って来るのであれば、鹿児島市内にそういう設備がすでにいっぱいあるので、こうなっている。

（事務局）新しいヘルスケアになるので、具体的な資料、成功した例は少ない。地域で弁当や食品加工をしている方々がつくり、消費するようなことを介護保険の中で考えられないか。知恵、アイデアを出せばいい。
　鹿児島からこれを引っ張ってきたいところがあるがなかなか難しい。一時的には川内に住んで働く場所が鹿児島にあっても、いきなり住むというよりいいのではないか。逆にこれを引っ張ってくることからすると、地域に必要な人材を持って来るイメージは必要ではないか。

（坂口委員）若い世代、子どもの世代では住みたいという環境の中では、遊ぶ場所ではないか。薩摩川内市では雨が降ると遊べるところがない。

（萩野委員長）雨が降っても大丈夫なところをつくらなければいけない。ヘルスケアビジネスについてはいろいろ検討しているみたいだ。いろいろな企業を全部集中するようなことを考えているように思うが、薩摩川内型のレベルにしようとしている。フィットネス、フィジカルなど拠点化をしようとしている。

（事務局）今の段階で具体的な事業イメージだが、地域で交流が進み、そのきっかけづくりが最

初にできればと思っている。表現をどうするかとしても、ヘルスケアについてはきちんと書き上げていきたいと思っている。

（内田委員）子育てをしていて雨が降っても遊べる場はすごくほしい。待っている状態だ。薩摩川内市にも空き地がいっぱいあるので、そこに何ができるか。こういうのがほしいとか、薩摩川内市の方も直接聞いていけるような場を持っていただければいい。
　私は出産してから就職していないが、働く場を見つけようと思ったときに子どもがまだ低学年なので選んでいくと週３回、週２回がない。月に 15 日がいいというのも実際の感覚を声を聞いてもらえると、雇用としても成り立っていくのではないか。

（事務局）空き地の話をしたり、こうあったらいいという環境をつくっていくのは必要かと思っている。出産後、週３回働けるような情報や雇用の場があれば少し見えてくるのではないか。
　どのようにして行政側から皆さんの意見を事業者にしていくべきだろうと思っている。
　国の政策としてはあるが実際の政策として具体的なアクションがまだ書けていない事業があるので、少し頭に入れながら次回審議いただくように考えている。

（萩野委員長）積極的に介入しても大丈夫か。

（事務局）検討はやりたいと思っている。

（青山委員）テレビの「ガイアの夜明け」で人口の話をしていた。若い方が水道代が安いからという話があった。薩摩川内市は水道代が上がっているも話も出ていた。薩摩川内市はいろいろな地域でも、川内中央と旧４町、旧４村等で水道代、市民税を少し安くするという情報が流れると主婦も住んでいいと思うのではないか。姶良に大きいショッピングモールができる。そこでいうと市内での雇用はないかもしれないが、何か近隣とは違う特色を出すことによって住んでみようというのも出るのではないかと思う。

（萩野委員長）錦江町は児童関係をほとんど無料化している。出生率は政府目標をすでに超えているので総合戦略をやることがない。もう１人産むのか。２人だったらもう１人産むのかという過程の中で様々な資金援助は書いてある。薩摩川内市というと大変な自治体でできることは限られていると思うが、生活政策、育児政策で市民に与えるインセンティブを考えていただくとよいのではないか。

（事務局）いろいろな選択肢があると思う。薩摩川内市の方が１人しか産む予定のないものを２人、３人となると経済負担があると思っている。
　一方、どの地域に重点化した政策を取って全体のバランスを取っていくのかが重要な視点だと思っている。地域全体を見たときにどういった地域に重点化し、そこを中心に社会的なネットワークを図る議論を、地域づくりや子育て支援の議論としてさせてもらいたい。

（萩野委員長）特区もそうだが、一律はそろそろどうかという意見が出るのではないか。代表的

な言い方は特区で、行政から見ると不公平かもしれないが、めりはりをつけてた総合戦略でいいのではないかという意見がいくつか出ていると思う。どの地域でどれをやるなどをすれば、政策のイメージが分かりやすくなる。薩摩川内は非常に広大な地域なので地域のイメージが大事な気がする。

（迫委員）前回の会議でも言ったように鹿児島県の専門高校の割合が 40 パーセントを超える。他県に行くと 20 パーセントにいかないので普通科進学校という状況になってきている。鹿児島県でも例えば一次産業の話が出ているが、農業高校で実際に自営農家の子どもがどれだけ入って来るかというと 1 割から 2 割になればいいぐらいだ。普通の家庭の子どもが農業という状況がある。実際就職をしたときにどうなるかというと、農業高校を出て自営をする子どもは非常に少ない現状である。そういう中で若年者の雇用を充足していくかは非常に難しい問題もあると思う。鹿児島県は農業特区で力を入れているところで、畜産関係の雇用をはじめとして、水産関係は養殖に力を入れている。

いろいろやっているが、農業についてはなかなか安定した収入が得られるものがなくなった、つくれない現状がある。養殖関係は自営で養殖を継いでいるところも多い。今の子どもたちが大事に育てられて非常に子どもっぽい一面も持っているが、ある意味非常にクールで大人の考えを持っていて安定的な生活をすごくロにする。本校は工業と商業があるが、今は３年生の就職に向けて全員の面接をしている。採用する動きがある。

求人はしても求職者がいないという状況があったが、安定した求人、自分が求めている求職に近い求人があるのだろうか。そこのミスマッチが見られるのかと思っている。

大手の企業になると福利厚生、給与面、育成にあたっての体制づくり、これまでの卒業生を雇用しての先輩方の活躍する姿を見て就職する安定化志向である。地元企業も非常に増えて来て、その多くは先輩が行って頑張っている企業である。とある電気関係の企業は半数以上が本校のＯＢだが毎年雇用をいただいて、あそこなら安心して働けるという意識が保護者の中にもある。今回、薩摩川内市を通じて企業の姿を見て安心して働ける方向で進めている。安定した生活を送る環境をつくる中で、子どもたちが生き生きと働ける土壌をつくってもらえればいいのではないか。何も地元の子どもだけではなく、Ｕターン組、Ｉターン組も含めて、薩摩川内市に何かこれというものがあれば安定して生活ができる求職ができるのではないか。

本校でも求人数が増えてきて生徒に対して 900 件、200 名ぐらいの求職が来ている。そのうち 150 件ぐらいは県内である。鹿児島県も昨年は 150 件ぐらいだが、今年も 550 件ぐらいまで増えてきて就職場所の割合も昨年度より半数近くまで増えて来ている。

（萩野委員長）新卒の話は前回もこの場でもした。絶対的に安定な企業は、なかなかない。全県で選んでいるのだろうと思うが、地元企業にかけてみようというインセンティブだ。自営、血縁含めたものは表に出て来ない。雇用対策でインターンシップ、企業との交流会とあるが、薩摩川内的な人間関係をベースにしたものを少しは入れてもらうと条件は少し劣るかもしれないが、地元志向は後押しすることができればと思う。検討していただきたい。

（西委員）若い方たちが働きやすい、住みやすいところにしてあげれば地元に戻って働く場ができる。高齢者といっても、お仕事を得て元気で頭も体も十分、いろいろな仕事ができる若い方た

ちの間でうまく交流できる。若い方も安心して働いて高齢者も生きがいを持ちながら地域に貢献する仕組みがうまくできないか。みんなを巻き込みながらやっていくことができれば、住みやすいのではないか。

（萩野委員長）アンケートでも薩摩川内市は人間関係がいいと出ている。その点も含めた地域づくりをしていっていただきたい。

～　以　上　～